

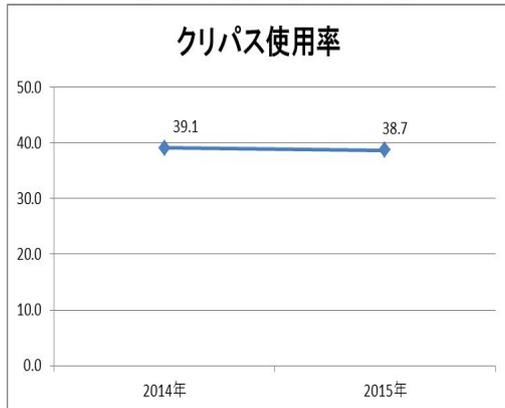
診療情報管理委員会ニュース

(2011年～2015年間：全日本民連QI推進事業：指標報告)

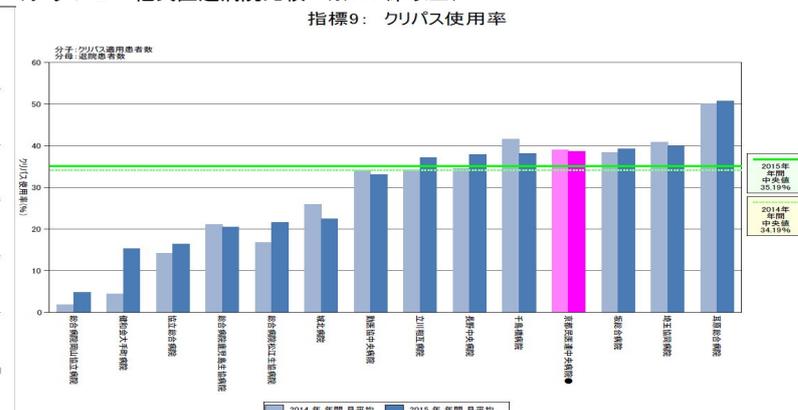
VOL.30 2016年9月 診療情報管理委員会

【全退院患者に対するクリニカルパス使用率】

＜グラフ1：当院経年比較 ※年間平均表示＞



＜グラフ2：他民医連病院比較 ※300床以上＞



分子：クリニカルパス使用患者数

分母：退院患者数

※注釈※ 地域連携パスに関しては、自院から発行した場合に限り分子にカウントする。

【意義】

●入院診療が、いかに計画され実践されているか。クリニカルパス使用率が上がることは、内容分析・見直しにもつながり、医療の質の向上に役立つ。

【結果】

●クリニカルパス（クリティカルパス）とは、ある疾患の治療や検査・手術を行う際に、入院～退院までの治療予定をスケジュール表のようにまとめたものを言い、患者さんにとっては、これから行われる治療を把握・理解することができる。病院側にとっては、医療の内容を標準化することができ、多職種間での情報共有・連携のツールにもなる。

●分母が「全退院患者」のため、緊急入院や複数の疾患に対する治療を行った患者など、クリニカルパスの適応が難しい、または適応できない患者が含まれてしまう、ということも踏まえてこの指標を見る必要がある。

●分母となる退院数が前年より約170件増加しているため、割合として大きな変化は無いが、実数としては増加している。

●当院では年2回「クリニカルパス大会」を開催し、パスに関係する疾患や術式、各部署での取り組み、パスの作成についての報告・学習の場を設けている。